

平和と人権 – 戦争は最大の人権侵害 –

ウクライナへの侵攻

日本は、第二次世界大戦(太平洋戦争)において、広島・長崎への原爆投下、沖縄への上陸攻撃など、数多くの犠牲者を出し、ようやく終戦を迎えました。悲惨な経験を糧に「二度と過ちは犯さない」という信念のもと、戦後77年「戦争」のない社会を創りあげてきました。しかし、世界を見てみると、民族や宗教間の対立や偏見・差別が存在し、そのことが新たな紛争を引き起こし、尊い命が失われている現状があります。

今、ロシアによるウクライナに対する軍事侵攻が続いています。民間人の犠牲者は増える一方で、大勢の住民も国外への避難を余儀なくされ、悲惨な映像とともに悲しいニュースが配信されています。

戦争では、人々の様々な権利が制約されたり、否定されたりします。また、基本的人権の1つである「生存する権利」さえも脅かされます。これは、人権侵害の差別と同じと言えます。



沖縄復帰50年

太平洋戦争に敗れたことで日本はアメリカに占領され、沖縄にあった日本軍の基地はアメリカ軍のものとなりました。戦後のアメリカ軍占領下、住民がまだ収容所に隔離されている間に、無断で集落や畑がつぶされ、住民の意思とは関わりなく、アメリカ軍基地が次々と建設されていきました。そして、アメリカ軍の必要に応じてさらに拡大されていきました。

現在、沖縄県には31のアメリカ軍専用施設があり、沖縄県総面積の約8%、沖縄本島では約15%の面積を占めています。

沖縄が本土に復帰した1972(昭和47)年当時、全国のアメリカ軍専用施設面積に占める沖縄県の割合は58.7%でしたが、今では70.6%が集中する結果になっています。

沖縄に基地を押し付けるのは理不尽だと、多くの沖縄県民は感じている(グラフ参照)とされています。

沖縄が、戦争の歴史の一部として、将来の戦争につながる基地問題の中心として語られずに済む日がおとずれるように、国民全体で考えていかなければならないのです。

今この瞬間にも、「大切な故郷を」「愛する家族を」「かけがえのない命を」失っている人がいます。

わたしたちにできること、それは…

関心を持ち続けること、「命を奪う戦争を許さない」と声を上げること

今こそ、子どもたちとともに、人権や平和について考え、行動する時ではないでしょうか。

